

令和7年度

人権を学ぶ会

「まとめ」

実施期間：令和7年 9月～11月

北 栄 町
北栄町教育委員会
北栄町人権教育・啓発推進協議会

令和7年度 人権を学ぶ会 実施概要

北栄町の将来像である「人と自然が共生し 確かな豊かさを実感するまち」の実現のため、人権を尊重するまちづくりを推進する必要がある。その具体的な取り組みとして、町民一人ひとりが学ぶことをきっかけとして、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざして「人権を学ぶ会」を実施した。

今年度の学習内容は、事務局が指定した DVD 視聴による学習と、各自治会の希望テーマによる個別学習から各自治会が選択し実施した。

開催にあたっては、各自治会の主体性を尊重し、実施の可否や参加定員の設定などは各自治会において判断していただいた。

なお、人権を学ぶ会の開催は 9 月3日から始まり、11月15日で終了した。

【実施状況】

実施自治会 62自治会（昨年度 58自治会）
未実施自治会 1自治会（昨年度5自治会）

【学習内容】

DVD 視聴 60自治会
個別学習 2自治会(講演会、ワークショップ)

【特記事項】

未実施自治会で自治会内において人権啓発チラシの配付希望があったので実施した。(1自治会)

(学習のポイント・ねらい)

- 人権問題が私たちの生活の中で身近にあり、自分自身に関わる問題でもあることに気づき、問題解決に向けて自分たちに何ができるかを考える。
- これまでの自分の行動や発言について、差別に結びつくことや偏見などがなかったか振り返る。
- 人権問題に対する正しい認識や判断力を持ち、身のまわりの不合理を正していくための力をつけるために、継続的な学習参加の必要性を認識する。
- 一人ひとりが地域社会を担う一員であることを自覚し、お互いを認め合い、人と人との助け合い、支え合い、交流により、すべての人の人権が尊重された安心して暮らせるまちづくりにつなげる。

令和7年度 人権を学ぶ会 まとめ

実施期間 令和7年 9月～11月

実施自治会 62自治会

参加者数 901人（昨年度 822人）

参加率 18.5%（昨年度 16.7%）

〔参加者の意見から〕

人権を学ぶ会の取り組みについて(抜粋)

- 参加することにより新しい知識、ハッとさせられることがある。まず気づくことが大事。
- 毎回異なったテーマと視点での学びが、日常の人権意識確立に役立っている。
- 繰り返し学ぶことが必要。
- 意識するきっかけづくりとなる。
- 考える機会になったり、自分自身を振り返る機会になる。
- 普段気づかないでいたことを再認識したり、いろいろ学ぶことができる。
- 人権は生きている限りついてくるといえるか、学ぶことだと思います。
- 正しい理解をするために続けてほしい。

〔考察〕

今年度は、人権を学ぶ会の実施自治会は昨年より4自治会增加し62自治会で開催され、参加者数は901人(79人増)となった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響から6年間未実施の自治会があり、数年ぶりの人権を学ぶ会の開催となった場合、自治会内の実施体制や参加意欲などが懸念されることから、今後そのような自治会に対する適切なフォローが必要となる。

今年度の人権を学ぶ会は、「災害と人権」を取り扱うことで、共助の大切さについて学び、要配慮者をはじめ、誰にも安心して安全な暮らしやすい地域について考えることを狙いとし、教材 DVD「要配慮者の備えと避難行動」を町推奨教材として実施した。

また、人権を学ぶ会以外での学習機会を提供するため、今年度から三朝町も加えた琴浦町・湯梨浜町・北栄町4町で連携し TCC 人権啓発番組『バイアス、ミナオス?』を作成し、TCC での放映やホームページに掲載した。

社会・地域・家庭・自分を振り返っての意見(抜粋)

- 高齢化が進む中、地域コミュニティはますます重要になっている。世代ごとのコミュニティ組織があるのは強みだと感じた。
- 誰一人も取り残さないことが重要。普段からの近所付き合いが大切。
- 普段からの地域内コミュニケーションの大切さを再認識できた。
- ご近所づきあいが何のために必要なのか、理解するきっかけになりました。
- 自分を見つめ直す機会になった。
- 家庭で話し合うきっかけとなった。

[考察]

人権を学ぶ会を実施した62の自治会のうち、58の自治会で教材DVD「要配慮者の備えと避難行動」を視聴し、災害と人権について学んだ。

参加者からは、「地域のつながりの大切さを考えることができた」、「普段からの近所付き合いが大切ということに改めて感じた」などの意見が多くあった。

これらの意見から、今年度の学習テーマが地域のつながりについて考えることができた内容であったことが伺える。

学んだことから行動に活かす意見(抜粋)

- 「災害時こそ人権感覚が試される」ということを心に刻み、いざという時には今日学んだことを思い出して、行動できるようにと思います。
- あいさつ等、隣近所等のみなさんとのコミュニケーションを引き続いて図っていききたい。
- 自治会での集まりやハザードマップを確認することで、一人ではなく近所の人たちとの声かけで安全を確保できるので、それらをさらに大事にしていきたいと思う。
- 備えあれば憂いなし。もう一度我が家の状況や近所の方の様子を理解し、災害に備えていきたい。
- 日頃からつき合いを持つ、あいさつをだけでもするなど心がけていきたいです。相手のことを思いやることは大切だと改めて思いました。
- 災害があってからあわてるのではなく、今回のような学習ができとても良かったと思う。まず家庭から話をしていきたい。

[考察]

「地域の人たちのつながりを大切にしたい。」、「今日の学習内容を今後活かしたい。」という意見を多くいただいた。

人権を学ぶことで、一人ひとりが大切にされ、共に支え合える地域につながっていくことをさらに伝え、それぞれの行動を促していく必要がある。

〔参加者アンケート結果から〕

●アンケートの概要

次年度以降の学習方法・内容等の検討資料とするため、人権を学ぶ会の参加者を対象にアンケートを実施した。

また、平成30年度よりアンケートにおける性別欄を撤廃した。これは、性的少数者への配慮に加え、性別の記載が必要な情報ではないと北栄町人権教育推進協力員会議で判断したことによる。

なお、これまではアンケートの回収率を上げるために、会の途中に記入時間を設けていたが、複数の要望を受け、令和2年度より訪問者の終わりの挨拶の後、閉会後にアンケート記入するよう日程を変更し、高い回収率となっている。

◆アンケート回収率 94.0%(参加者 901人中 847人分回収)

※昨年度回収率 93.2%(参加者 822人中 766人分回収)

◆アンケート回答者の年齢

(単位:%)

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
R7年	0.5	0.2	2.6	7.3	17.2	30.8	33.4	7.9
R6年	0.5	0.4	3.3	9.9	16.1	30.8	32.4	6.5
R5年	0.6	0.4	2.5	10.6	16.3	32.9	29.0	7.7
R4年	1.2	0.4	3.4	11.4	15.0	35.8	29.9	2.9
R3年	1.0	0.5	3.6	9.8	16.0	39.9	25.8	3.4

※端数処理の関係で、集計値の合計は、必ずしも100%とならない場合がある
〔考察〕

全ての参加者のうち、50代以下と60代以上で区分した場合の参加者割合は、50代以下は全体の27.8%(昨年30.2%)、60代以上は全体の72.1%(昨年69.7%)となり、若年層の参加率が低い傾向が続いている。

DVD 視聴等を中心とした現在の学習方法は、中高生などを含めた若年層の参加も十分意義があり、参加者からも若い人に参加してほしいとの声もあることから、今後も若年層の参加を増やしていくために、家族ぐるみの参加を促すことや、学校等への働きかけも継続していく必要がある。

●アンケート結果と分析(数値:%)

問1 本日の人権を学ぶ会に参加して、あてはまる回答にひとつ○をしてください。

① 今日の学習内容(DVD・ミニ講演等の内容)は、

	ア わかりやすかった	イ わかりにくかった	ウ どちらともいえない
R7年	93.0	0.8	6.2
R6年	89.6	2.4	8.0
R5年	93.1	1.2	5.7
R4年	95.4	0.2	4.4
R3年	95.8	2.0	2.2

[考察]

学習内容について「わかりやすかった」と回答した参加者は93%で、昨年よりも高い割合となっている。

今年度は多くの自治会で教材 DVD「要配慮者の備えと避難行動」を活用した学習を実施されたが、アンケート意見の中には、「具体的な例を挙げて説明されていたので、わかりやすかった」、「自助と共助の違いを明確に説明されていてわかりやすかった」などの意見もあり、結果はその表れだと考えられる。

また、今回のテーマである災害と人権は、起こりうる災害への備えに高い関心があり、自助や共助の理解を深め、地域での支え合いを大切にすることなど参加者の多くが自分事としてイメージしやすい学習内容だったこともこの高い割合につながっていると考えられる。

② 今回の人権を学ぶ会に参加して、今後活かせる学習に

	ア なった	イ ならなかった	ウ どちらともいえない
R7年	90.4	1.0	8.6
R6年	86.6	1.1	12.3
R5年	89.4	0.5	10.1
R4年	91.6	0.2	8.3
R3年	92.1	0.7	7.2

[考察]

昨年と比較すると、今後活かせる学習になったとする割合は増加し、過去5年間で、3番目に高い割合となっている。これは、「具体的な事例で説明があり、分かりやすかった」などの意見も複数あるように、DVDの内容が、身近な地域のつながりについて考えるきっかけとなり、自分事として捉えやすかったことも考えられる。

地域のつながりについては、配慮が必要となる場面やプライバシーの問題もあるが、自分ができることを知ることで、何が人権問題なのかを気づき、行動することが可能になる。

人権問題の解消は、まず「知る、感じる、気づく」ことから始まり「行動」へとつながっていくものであり、今後も「知る、感じる、気づく」を導く学習テーマや教材を提供し、一人ひとりの「行動」につながる学習としていく必要がある。

③ 次回の人権を学ぶ会は、

	ア 参加したい	イ 参加したくない	ウ どちらともいえない
R7年	79.3	0.6	20.1
R6年	76.4	1.5	22.1
R5年	76.0	0.7	23.3
R4年	73.5	0.5	26.0
R3年	80.0	0.5	19.5

〔考察〕

設問①の分かりやすさや、設問④の満足度の高さに比較して、次回も参加したいと回答した割合は昨年度から増加したものの、それほど高い割合となっていない。

「参加したい」の理由として、「知っていることでも改めて再認識できるから、機会があれば参加したい」、「毎回自分の視点以外の気づきがあるから」、「継続することが大切だから」など、人権を学ぶ会が新たな知識を得ることができることや、継続した学習をすることで自らの人権意識をチェックする機会となっており、実際に学びを感じた参加者が次回も参加したいとする前向きな意見につながっていることが伺える。

一方で、「どちらともいえない」と回答した意見の中では、昨年に引き続き「学びたいテーマであれば参加する」、「時間帯が合えば参加する」などの意見も複数あった。

また、「参加者が少なくて残念」などの意見もあり、様々な人権問題について興味関心を持っていただく効果的な周知とともに、より参加しやすい開催方法や時間など、自治会と一緒に検討することが必要である。

④ 今回の人権を学ぶ会の満足度はどれくらいですか？

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
R7年	41.3	47.0	10.7	0.8	0.2
R6年	43.7	43.8	11.4	0.8	0.3
R5年	44.0	46.9	8.1	0.7	0.3
R4年	46.0	45.4	7.7	0.7	0.2
R3年	49.0	43.1	6.3	1.3	0.3

〔考察〕

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると88.3%で、9割近い割合となっている。これは、「ビデオを視聴して改めて地域コミュニティの大切さを考える機会になった」「具体的な例を挙げて説明されていたので、わかりやすかった」などの意見から伺えるように、参加者にとって身近なテーマ設定であったことが、要因の1つだと推察される。

問 2 この3年間に人権学習の場に何回参加されましたか？

	ア 5回以上	イ 3回～4回	ウ 1回～2回	エ はじめて
R7年	15.2	32.8	32.4	19.6
R6年	16.5	30.6	30.2	22.6
R5年	13.4	25.2	33.2	28.2
R4年	13.7	25.9	33.3	27.0
R3年	14.8	34.0	32.7	18.4

〔考察〕

この3年間に5回以上参加している人の割合が、過去5年間で2番目に高い割合となった。この人権を学ぶ会をはじめ、分かりやすいじんけんの話、じんけんフェスティバルなど、様々な学習機会により、町民の継続した学びつながっていることが伺える。

今後とも、新たな参加者を増やし人権を学ぶきっかけにつなげていくことと同時に、継続した学びとしていく工夫や人権を学ぶ会で取り上げるテーマと関連する団体等と連携し、人権の取り組みの裾野を広げていくことを意識しながら、引き続き連携・啓発に努める必要がある。

問 3 今後、学びたい人権テーマや、興味ある人権テーマは？(上位5テーマ)

- | | | |
|-------------------|-------------|------|
| 1 高齢者の人権 | 310人(17.0%) | 昨年2位 |
| 2 インターネットにおける人権 | 226人(12.4%) | 昨年3位 |
| 3 障がいのある人の人権 | 218人(12.0%) | 昨年1位 |
| 4 個人のプライバシーに関する人権 | 191人(10.5%) | 昨年4位 |
| 5 こどもの人権 | 162人(8.9%) | 昨年5位 |

問 4 今回の学習内容(人権問題)に関連したご意見・ご感想をご記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・地域のつながりの大切さ(常日頃からのコミュニケーション、助け合いのできる地域づくり)についてより強く認識できた。
- ・高齢者の独居が増えてきているが、自治会内での支え合いとコミュニケーションをとるための交流の場づくりの必要性。個人のプライバシーに配慮しつつも防災意識も高められるよう、班単位で自助、共助の心を啓発していく必要性があると感じ

た。

- ・今は近所に住んでいても、普段ほとんど顔を合わせる事のない方が増えていきます。「共助」という意味でも地域の方の事を知ることも大切だと感じました。
- ・自分にできることを考える良い機会になったと思います。
- ・地域とのコミュニケーションをとるということは理解できるが、いざしようと思っても難しいなと思いました。
- ・共助の大切さはよく分かるが、実際の場合どこまでできるのか、考えないといけないなと思った。

〔考察〕

「近所のつきあいをもっと大切にしたい」、「改めて人とのつながりやコミュニケーションの大切さがわかってよかった」などの感想をいただいた。

地域のつながりにおいて、お互いを大切に思うことは人権の基本的な考え方であり、今年度の学習内容が、「困ったときはお互いさま」の人と人のつながりを大切に、自分も地域の人も尊重することを改めて考えていただく機会になっていることが伺える。

問5 本町人権教育の取り組みについてご意見・ご感想があればご記入願います。

〔主な記述の抜粋〕

- ・継続する事が大事。
- ・正しい理解をするために続けてほしい。
- ・人権教育といっても自分に関わりがないとなかなか興味が持てませんが、身近なことから学習していけたらと思いました。
- ・人権学習というとしり込みする人はまだまだ多いと思います。参加しやすい学習の機会をなるべく作ってほしいです。
- ・自分事としてもう少し参加者があったらと思う。

〔考察〕

いただいた様々なご意見について十分に検討していく必要がある。例年、若年層の参加促進や、周知方法を工夫し参加者を増やすべきなどの意見をいただいている。

また、一昨年・昨年に引き続き人権を学ぶ会以外での学習機会を提供するため、今年度から三朝町も加え、琴浦町・湯梨浜町・北栄町4町連携でTCC人権啓発番組を作成し、放映やホームページでの視聴も可能にした。

今後も、町民が積極的に参加できるような人権教育の取り組みを実施していく必要がある。

【おわりに】

近年、少子高齢化、核家族化、ひとり親世帯の増加や地域のつながりの希薄化から、家族内や地域内での互いが支え合う力の低下が問題となっている。また、コミュニケーションの低下した状態での人間関係は、お互いを思い合い、違いを認め合うことも遠ざけてしまう。

このような社会状況の中で、地域の共助や地域全体で支える力を維持・再構築するためにも、町民一人ひとりが人権について学び、「誰一人取り残されない」地域にしていけるよう一緒に考え、実践することは重要であり、「人権を学ぶ会」の果たす役割も益々大きくなっている。

今後も、様々な人権問題の解消と人権が尊重された住みよいまちづくり推進のため、「人権を学ぶ会」を充実・発展させていき、“個性を認め合い、互いの心に寄りそうまち”をめざす必要がある。